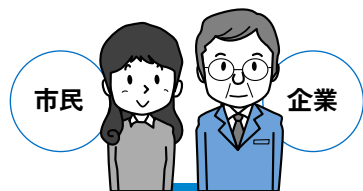


さぽーとほっと 基金

市民の寄付が まちづくりを支える

市では、皆さんからの寄付を受け入れる「さぽーとほっと基金」を設置しています。この基金に寄付されたお金が、市民活動団体や町内会へ助成されることによって、さまざまなまちづくり活動が支えられています。



寄付

さぽーとほっと基金

22年度寄付金合計
約6,400万円

まちづくり活動へ
助成

● 団体や分野などを指定して寄付ができます

市に登録されたボランティア団体や町内会、NPO（非営利の市民団体）などを指定して寄付できるほか、福祉や子育て、文化・芸術といった分野などを指定した寄付もできます。なお、寄付をした場合、税の優遇措置が受けられます。

● 東日本大震災の被災者支援活動も応援

被災者への支援活動を行う市民活動団体への寄付も、新たに受け付けています。

■ 寄付をするには

- ① 市民活動促進担当へ電話して寄付申出書（ホームページからも入手可）を取り寄せ、記入して送り返す。
- ② 納付書が届くので、銀行へ持参して寄付金を振り込む。

昨年度の寄付金は、福祉活動や子育て支援など、103団体108事業に助成しました。これまでに助成した活動の一部を紹介します。

高齢者の日常生活を支援 助成額10万円

助成先: さっぽろ福祉支援ネット「あいなび」

高齢者が通院する際の送迎から家の電球交換まで、さまざまな支援を行っている。

助成を受けて、高齢者宅の簡単な住宅修理や庭の手入れをする道具などを購入し、支援に役立てました。支援を必要とする方々は体が不自由な方がほとんど。そういった方々が施設に入らず、自宅で生活するには、介護保険サービスでは実施されない細やかな支援も必要なんです。利用者からは「どんなことも対応してくれて、ありがたい」と、とても喜んでもらっていますよ。

あいなび理事長
しもがわら きよみ
下川原 清美さん



地域の人を集め、歩行困難な状況を体感する催しなども実施している

親子向けに遊び場を提供 助成額50万円

助成先: 子育て支援ワーカーズ「プチマト」

子育てイベントを開催するほか、親子や高齢の方など多くの世代が集まるカフェも運営している。

親子でゆっくり過ごしてもらうためのイベントを、9月にわたり定期的に開催しました。木の球が3万個入った「木の砂場」などたくさんの木のおもちゃを用意したほか、人形劇なども実施。お母さん同士で子育ての悩みを相談し合うなど、人のつながりもでき、「ありがとう」の言葉をたくさんもらいました。そんな感謝の気持ちを力に、これからも地域のために頑張っていきたいです。

プチマト代表
きただ ようこ
喜多 洋子さん



木の砂場のイベントには、100人を超える親子が参加し大盛況だった



男性が集い料理で健康づくり 助成額10万円

助成先:

男が料理を作る友の会

管理栄養士などを招き、高齢の男性もできる調理実習や勉強会、講習会などを実施。老後の健康と食生活の自立を目指しています。



ミュージカルで世代間交流 助成額20万円

助成先:

札幌市民ミュージカル実行委員会

市民が手作りで舞台制作から衣装作りまでを行い、ミュージカルを開催。世代間の交流やミュージカルの普及を図っています。



企業の強みを まちづくりに生かす

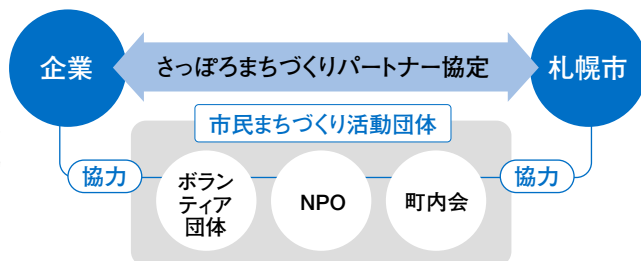
まちづくり
パートナー協定

札幌 スタイル

企業と市では、両者が協力してまちづくり活動を行う「さっぽろまちづくりパートナー協定」を締結しています。この協定に基づき、企業の強みを生かし、他の団体とも連携した特色ある取り組みが行われています。

さっぽろまちづくり パートナー協定とは

企業と市が、福祉や環境、防災など市の仕事の複数の分野で協力することを取り決めた協定です。企業は、自分たちの持つノウハウや店舗、商品などの資産を生かし、ボランティア団体や町内会などとも連携しながら、活動を進めていきます。



—— パートナー企業による活動の一部を紹介します ——

ローソン

お弁当の開発で健康づくりに貢献

保健所から生活習慣病予防のためのお弁当を作りたいとの話があり、ヘルシー弁当を開発しました。食育ボランティアの女子大生6人が参加し、彼女たちのレシピを基に保健所が栄養バランスを検討。売り出し方や時期、パッケージなどを当社で考え、全員の思いが形になるように作り上げました。市民の皆さんの健康づくりを進める活動ですので、ぜひ継続したいですね。

北海道ローソン支社
北海道商品部
マーチャンダイザー
やまざき あつし
山崎 敦史さん



試作品を調理しているところ。炊き込みご飯、オムライス、ビビンバの3種類からビビンバに決定した



イオン北海道

店舗を使って自転車マナー向上を推進

「自転車マナーの改善を」という声が市に多く寄せられていると聞き、市や警察と協力し、店舗の一部を使って自転車マナー教室を開催。地域のお客様、合計400人が参加し大好評でした。自転車を販売する際には、自転車マナーのリーフレットを配布するなどして、事故防止の啓発にも努めていますよ。これからも地域の安全のため、取り組みを続けていきたいですね。



親子連れや高齢者を中心に多くの方が参加。正しい乗り方やルールを再確認した

管理本部CS・
社会貢献部長
おおの よしたか
大野 芳高さん



その他の パートナー企業

■ サッポロHD・サッポロビール

札幌駅南口に花壇を造営したほか、自社のイベントにまちづくり活動の宣伝ブースを設置など

■ 日本ハム北海道販売・ 北海道日本ハムファイターズ

食育教室や食物アレルギーの講演会の開催ほか

■ 北海道コカ・コーラボトリング

雪まつり応援デザイン缶の販売や、自動販売機へのまちづくりセンター宣伝シールの貼付など

■ 札幌青年会議所

東日本大震災の街頭募金の実施や被災地への物資の搬送

みんなの思いをまちづくりにつなぐ

札幌をもっと住みよい、魅力的なまちにしたい——。市民や企業の皆さんのそんな思いが、寄付やパートナー協定を通じて、たくさんのまちづくり活動につながっています。

あなたもぜひ、子育てや高齢者の支援、健康づくりなど、さまざまな活動の中から、自分や家族の思いを実現する取り組みを見つけて応援してみませんか。



さばーとほっと基金への寄付の方法や22年度の助成先などを掲載したパンフレットを配布します。

配布時期:5月下旬から

配布場所:市役所13階市民自治推進課、区役所など

詳細はホームページwww.city.sapporo.jp/shimin/support/index.htmlでもご覧になれます